

おはようございます

JAグリーン長野 篠ノ井支所 共済課
櫻井 みのり



窓口業務を担当しております。日頃より組合員の皆さま、地域の皆さまには共済活動へのご協力をいただきありがとうございます。JA共済では「ひと・いえ・くるま・農業」の総合保障を提供しております。万一何かあった時、お役に立てるように、日々の業務で丁寧な説明を心掛けてまいります。ご不安やご不明な点がございましたら、お気軽に窓口にご相談ください。

健康Q & A

子どもの咳が治まらない

Q 4歳の娘が3日間発熱した後、熱は下がったのですが咳がひどくなり、小児科にかかって咳止めの内服薬やテープを出してもらったのですが、効いている感じがしません。夜間就寝時に何度もせき込んで目覚めて苦しうにしています。何とかありませんか？ (36歳、女性)

A 下気道炎を起こすウイルスの感染と思われる。代表的なものとして、RSウイルスやヒトメタニューモウイルスなどがあります。基本的には自然治癒しますが、咳がひどい方にはお薬を処方します。ただ、鎮咳薬や去痰薬の効果はあまり高くはありません。より強力な鎮咳薬もありますが、使用後に呼吸停止を起こした重篤な事例の報告もあり、お勧めできません。

寝ている時に、お子さんの背中に耳を当てて呼吸の音を聞いてみてください。呼吸時(息を吐く時)に「ゼー」「グー」「ギュー」といった音が聞こえれば、喘息の状態、気管支拡張薬や喘息用の抗アレルギー薬は有効です。気管支拡張の貼付薬は、4～6時間後に最大効果を発揮するため、夜9時ごろに貼るとよいでしょう。

感染による、特に夜間の強い咳に対しては、通常の鎮咳薬よりもハチミツの方が有効との報告もあります。1日2～3回、小さじ1/2杯のハチミツをなめてみてください。ただし、ボツリヌス菌感染のリスクがあるため、1歳未満の方は行わないように。この他、咳止めの漢方薬もありますが、独特の味のため、年少児には内服は難しいかもしれません。

いずれにしても、もう数日以内に咳も治まってくると見込まれます。

(JA長野厚生連長野松代総合病院
小児科副部長 清水正己)

お知らせボード

★おいしい長野米＝県産新米キャンペーン

JA全農長野は長野県産の新米購入で1万円分のお米券などがもらえるキャンペーンを今年も展開しています。年内＝12月31日(火)まで＝にキャンペーンシールが付いた対象商品を二つ購入してウェブまたははがきで応募してください。詳細はキャンペーンホームページ(右記QRコード)でご確認ください。



私たちの国で消費するたべものは
できるだけこの国で生産する
国産国産にJAグループは
取り組んでいます



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



17 パートナリシップで目標を達成しよう



食と農で地域に笑顔をつくります

次代につなげる農業・組織・経営基盤の確立

絶妙な甘さと酸味 信州リンゴ



上々の出来に笑顔を浮かべるJAあづみりんご部会長の佐原茂さん

JAあづみで聞く

生産量全国2位を誇る信州のリンゴが県内各地で出荷のピークを迎えています。「今年は春先の凍霜害も少なく、実が大きく糖度の高いリンゴが育ちました」。たわねに実ったシナノスイートを手に取り、上々の出来に笑顔を浮かべるのは、JAあづみのリンゴ部会長を務める佐原茂さん。生産者を代表して信州リンゴの魅力を改めて伺いました。

松本市北西部に位置し、高地から流れる清流・梓川によって形成された扇状地帯に広がる梓川小室地区。肥沃な土壌と豊かな湧水、昼夜の寒暖差が大きく降水量が少ない同地区は、県内有数のリンゴの名産地です。現在、2・3畝の農園で収穫時期の異なる

豊かな土地と長年の努力と研究 結実

11品種のリンゴを栽培する佐原さんは、リンゴ農家に生まれ、25歳で就農。「最初は軽い気持ちで始めたので遊んでばかりいて…。33歳くらいになつてようやく『そろそろ引き継ぐ覚悟を決めよう』と心を入れ替えました」と当時を振り返ります。

両親や近隣農家から本格的にリンゴ栽培のノウハウを学び、県外のリンゴ農園にも視察に行く日々。そこで手間暇かけて本気でリンゴと向き合う農家さんたちに出会い、「世の中にはこんなにかっこいい人たちがいるのか。この人たちに負けないリンゴを作りたい」と刺激を受けたと言います。それから30余年、佐原さんはこの地で、食べた人が思わず笑顔になるような「おいしいリンゴ」の研究を続けています。

「わい化栽培でリンゴの産地に」
梓川地区では、樹木をコンパクトにして収量を多くする

将来見据え新しい栽培方法拡大へ



薄い壁状にリンゴの樹列が並ぶ佐原さんのリンゴ園

「わい化栽培」が主流です。昭和40年代後半、全国に先駆けてこの技術が導入されると、国の事業によって農地整備が行われた時期と重なり、急速に植栽が進みました。当時その一翼を担ったのが、梓わい化栽培組合です。佐原さんのお父さんを含めた同組合の先人が、わい化栽培技術の開発・改善を行い、第13回日本農業賞(1983年)や第23回農林水産祭天皇賞(84年)を受賞しました。「先代たちが切磋琢磨し、つなげてきてくれたから今がある。リ

ンゴがよく育つのは私の愛情はもちろん、先代が残してくれた豊かな土地と、努力の結晶である知恵と技術のおかげです」
佐原さんの代になると、2007年からは「新しい栽培」「高密植わい化栽培」に取り組んできました。35～40畝の樹間で定植し、側枝を下垂誘引して樹形を円筒形に近づけることで、薄い壁状の樹列ができる栽培様式で、わい化栽培以上に早期多収、品質の安定化、作業効率化が期待できます。さらに高度な剪定技術を必要とせず、作業しやすく農園内の移動もスムーズなため、誰でも参入しやすいそうです。佐原さんはこの栽培技術と農園を次世代に引き継ぐために、就農者の育成にも注力しています。「今やこの方法が世界スタンダード。信州のリンゴ栽培を絶やさないためにも、県内に広く浸透させていきたいです」と今後の展望を語りました。

「一番おいしい状態」で届けたい

JAあづみでは適期収穫に力を入れ、品種によっては糖度14度以上を保証するなど「一番おいしい状態」で消費者にリンゴを届けられるよう、約580人の生産者が一丸となって栽培に取り組んでいます。近年は不動の人気を誇る「サンふじ」のほか、長野県オリジナル品種の中でも秋映、シナノスイート、シナノゴールドの順で出荷さ

れる「りんご三兄弟®」の生産量が増えているそうです。「この3品種はどれもシャキッとした食感、ジューシーな果汁、甘さと酸味のバランスが絶妙で、老若男女問わず人気です。私たちは消費者の皆さんの「おいしい」笑顔を見ることが一番の幸せ。ぜひ信州リンゴの旬を逃さずに、味わってほしいです」と佐原さんは笑顔で語ります。

味わい・食感・果汁 三拍子そろった 長野県オリジナル「りんご三兄弟®」

特徴的な暗紅色

「千秋」と「つがる」の交配品種。甘味、酸味ともに中くらいで、暗紅色に着色する。果汁が多く、シャキッとした歯ごたえです。

秋映



ほどよい甘み

「ふじ」と「つがる」の交配品種。果汁が多く、名前のとおりほどよい甘味と少ない酸味が特徴です。

シナノスイート



食感はパリッと

名前のとおり黄色の品種で、「ゴールドデリシャス」と「千秋」の交配品種です。パリッとした食感で甘みと酸味のバランスがよく、果汁が多いのが特徴です。県がイタリアの生産組合とライセンス契約を結び、ヨーロッパでは「YELLOW®」の名で販売されています。

シナノゴールド

